

「滝沢村巣子 I 遺跡出土大洞 B C 式大型壺について」(訂正)

金子昭彦

岩手県立博物館 020-0102 盛岡市上田字松屋敷 34

はじめに

当館の常設展示室考古部門のコーナー(総合展示室「いわての夜明け」)にある「大洞文化」のケース左下隅に、滝沢村巣子 I 遺跡出土の大型壺が展示されている(写真)。この壺は、滝沢村(当時)在住の皆川マサコ氏に寄贈していただいたもので、その経緯と出土品の評価については、本誌第 24 号(2007 年 3 月発行)に「滝沢村巣子 I 遺跡出土大洞 B C 式大型壺について」として報告されている(高木 2007)。

皆川氏は、先年お亡くなりになり、その遺品を整理していた御遺族が、この報告の抜刷を見つけ、そこに事実誤認があることに気づいて来館され、訂正記事の公表を強く望まれたため、本稿を草する次第である。

1 資料の発見経緯

前回報告に掲載された発見の経緯のうち、本稿に係る箇所は以下のとおりである。

「発見したのは昭和 20 年代。当時存命の主人と共に自宅脇に水道管を埋めるための溝を掘っていた時、スコップで地面を数十 cm 掘り下げたところ、何かにスコップの先端が当たる感触があった。土を取り除くと土器の表面が見えた。最初に現れたのは皿のような土器のかけらで、これを取り上げるとその下に壺の口が見えた」。

「洗ってみると、最初にスコップが当たった場所に傷が生じていることがわかったが、その他には欠けている所がほとんどなく」

「その後、この土器の話を伝え聞いた複数の人々から譲渡、もしくは購入の申し出があったが、全て断ってきた」。

また昭和 40 年頃には、話を伝え聞いた岩手大学草間俊一教授が自宅を訪問し土器の調査を行った」。

2 訂正

発見が昭和 20 年代に遡ることはあり得ない。発見の

契機となった水道管工事は、国道を挟んで隣に県立盛岡農業高等学校が移転することになったために必要になったものであり、農業高校の移転は昭和 41 年 4 月である。

そうすると、草間俊一教授が昭和 40 年頃に訪問した理由を理解しやすくなる。発見からまもなく聞きつけて訪問したのであり、発見から 20 年近くも経って 1 点の土器の出土を伝え聞く方が不自然であろう。

3 引用文献

高木晃(2007)「滝沢村巣子 I 遺跡出土大洞 B C 式大型壺について」岩手県立博物館研究報告 24: 55-60

要 旨

本誌第 24 号に掲載された「滝沢村巣子 I 遺跡出土大洞 B C 式大型壺について」の事実訂正である。発見は昭和 20 年代に遡らない。

キーワード: 巣子 I 遺跡、壺、発見時期、訂正



写真 巣子 I 遺跡出土の大型壺